

運動会の前日となりました！

各学年・学級では、これまで、明日の10月17日(土)の運動会に向けて、様々な取組に対して工夫して行われ、今日は、最後の練習であるリハーサルを行いました。

走ること・表現すること・力を合わせること・自分の目標に挑戦すること等々、本当に多くの力が身に付く機会としては、とても大切で絶好の機会です。学校行事という特別活動は、日々の学習活動だけでは学ぶことができないところを補っている取組でもあります。

また、心を育てる分野においても、とても大切な機会であり、道徳の授業や様々な取組と連動して行われることもあります。

例えば、団体競技等の集団で取り組む場合は、勝ち負けの学びもちろんありますが、一人一人がもつ力を合わせることの大切さやどうすれば一つの力にしていけるかなど、子供たち自身が考えだした方法を使って、試してみたり挑戦したりしながら、当日を迎えていくような取組もあります。そこには、トライ＆エラーのように、全てが上手くいくばかりではありません。失敗をすることも前提にしながら、取り組ませていくことが大切です。その先に勝ち負けの学びがあり、現在の学校における運動会での大切な理念的なものとなっています。(全ての学校で、当てはまるものではありませんが。)

勝っても学び、負けても学び、そして、個々の挑戦や取組でも学ぶことができるのが運動会です。

私が小学校教員となった頃から比べると、運動会そのものが大きく変容し、個と集団を意識して、学校全体や低・中・高学年での集団、学年・学級での集団が成長し、力を付けていく。その中で、個々の子供たちも、様々な関わりの中で育っていきます。このように運動会のもつ行事としての力を最大限に活かすようにしながら、学校全体で取り組むことができる大きな機会の1つです。

失敗することも認めた上で、子供たちを励ましたり褒めたりして価値付けてきています。

保護者の皆様、地域の皆様、運動会の当日だけでなく、その過程においても子供たち一人一人の頑張りがありますので、運動会全体を通じて褒めていただいたり、励ましたりしていただけますよう、よろしくお願いいたします。

昨年度は、天候の関係で平日開催でしたが、今年度は、明日の土曜日に開催できるところです。子供たち一人一人の達成感や成就感、そして、頑張ることの大切さなど、多くの学びのある運動会にしたいと思っています。多くの方のご来場をお待ちしています。

今年度の六サボの取組から

校舎と校庭の間に、それぞれの学年が植物や野菜の栽培をしている、学級園があります。

紹介が遅くなってしまい、大変に申し訳ないことをしてしまいましたが、この夏の学級園には、ミニヒマワリがたくさん咲いていたのをご覧になった方も多いと思います。



この夏のミニヒマワリは、六サポでお世話になっている、(特に3年生がお世話になっていますが)農家の方が、本校の学級園の土おこしをして、ミニヒマワリを植えてくださいました。

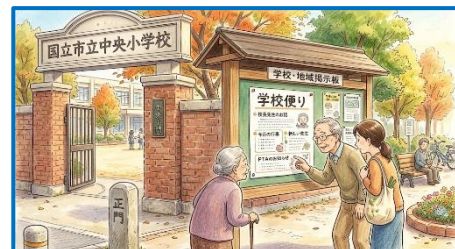
六サポの協力者として、学校の取組にお力を頂いております。心から御礼を申し上げますとともに、多くの方に関わっていただく中の1つ大きな事例としてこの場でご紹介をさせていただきます。本当にありがとうございます。

これからも、六サポの皆様、PTAや保護者の皆様、地域の皆様の力をお借りして、教育活動を進めてまいります。何卒、よろしくお願いいたします。

学校掲示板の設置

六小の地域や学区域を歩いていると、よく目に入るのが、各地域の掲示板です。それぞれの地域の情報や取組が掲示されていて、地域性も分かるものと思います。

最近は、SNS等のスマホやパソコン等のICTによる情報発信が当たり前になっていますが、実際に手に取ってみるチラシやフライヤー等の方が、効果的な場合があります。本校でも、情報発信は、紙ベースで配布するものと、すぐーるやホームページに掲載するものがほとんどです。紙ベースも保護者を中心とした関係者までの配布となりますので、学校近隣にお住まいの方や地域の方に、学校便りや校長室便り等の学校の情報をご覧になれない方もいらっしゃると思います。



そこで、今年度の途中とはなりましたが、掲示板の設置を行います。南門の校舎に向かって左側のところに設置いたしますので、ご承知おきください。学校便りや校長室便りから掲示をして、近隣や地域の皆様にも学校の取組をできるだけ、お知らせしてまいりたいと思います。設置時期は、11月に開催する展覧会に合わせて設置する予定です。どうぞ、よろしくお願いいたします。

【校長のつぶやき】

この間、母校の大学で大学祭が行われました。大学の合唱団に所属し、3年生の頃から、学生指揮者として活動を始めました。指揮者としてのデビューもこの大学祭の時です。初めて指揮を振ったのは、合唱界では、知らない人がいないほど有名な合唱曲「大地讃頌」です。

大木 惇夫(おおき あつお)：作詞、佐藤 眞(さとう しん)：作曲、「混声合唱とオーケストラのためのカンタータ『土の歌』」の最終曲がこの大地讃頌です。合唱をされていない方でも、中学校の合唱コンクール等で取り組まれますので、歌われた方もいるのではないのでしょうか。私も何度も歌ったことがあります。

この楽曲は、本来はオーケストラと共に演奏するために作曲されていますので一度は演奏したいと思っていましたが、その機会には、恵まれませんでした。

この壮大で、歌う楽しさを実感ができる合唱曲「大地讃頌」は、ハモリの楽しさを実感ができる曲でもあります。そして、自然を支える大地への畏敬の念や感謝、更には、地球そのものの存在の有難さも感じられるようであり、その思いを込めて、自分自身の存在を支える大地を実感するように歌い上げる、そんな曲のように思います。あくまで、この思いは私の主観的な思いです。

大学祭での指揮は、納得のいくものでは全然ありませんでしたが、生涯の原点の時間と空間になりました。明日は、本校の子供たちが、運動会で様々に取り組みます。その一つ一つの取組の中に、これからの未来の土台になってくれることを心から願っているところです。